

産山村教育研究会資料

令和6年3月12日

We have a dream

「産山の教育」

※「We have a dream」
は産山学園の校訓

産山学園校舎全景



うぶやま保育園舎全景

産山村教育委員会

「We have a dream」

産山村の教育～小中一貫教育を核とした教育力の向上～

- 1 はじめに(校区の概要とこれまでの本村教育の取組)
- 2 産山村の教育がめざすもの(これまでの取組を踏まえて)
- 3 取組の概要について
 - (1) 教育システム(4・3・2制 評価システム 複数指導体制
教科担任制 土曜授業 連携システム)
 - (2) 9年間の系統性・連続性のある確かな学びの確立
 - (3) 特色ある教育課程の編成
(ヒゴタイングリッシュ・うぶやま学・チャレンジ学習)
 - (4) ICT教育の推進
 - (5) 地域との連携(コミュニティ・スクール)
 - (6) 教育委員会の取り組み



1 はじめに

校区の概要と
これまでの本村教育の取り組み

(1) 校区の概要

熊本県阿蘇郡産山村



熊本県

福岡県

大分県

佐賀県

長崎県



産山村



阿蘇市

玉名郡

玉名郡

天草郡

苓北町

天草市

上天草市

八代郡

永川町

八代市

五木村

球磨郡

水上村

葦北郡

芦北町

球磨村

山江村

相良村

湯前町

津奈木町

水俣市

球磨郡

人吉市

あさぎり町

多良木町

鹿児島県



産山村

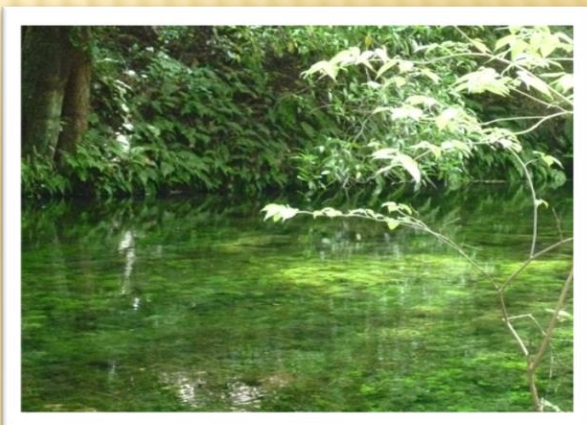
- ▲ 熊本県北東部
- ▲ 阿蘇外輪より大分県久住山麓
- ▲ 標高591.26m(学校)
- ▲ 636(昨年621世帯)世帯
人口1,401(昨年1411人)人
(R5.4.1現在)

※高齢化率 43.3%(昨年比+0.4)

▼ 村花:ヒゴタイ



▼ 池山水源(環境省名水百選)



▲ 阿蘇涅槃像



▲ 村イメージキャラクター
「うぶちゃん」



▲ 扇田(全国棚田百選)



▲ うぶやま牧場

▼ 一覽三山の台



産山村 15歳未満人口推移表

令和5年4月1日現在

年齢	対象人数 (住民基本台帳数)	児童・園児数	摘要	
0歳	7名	1名	はな	R4生
1歳	9名	8名	ほし	R3生
2歳	7名	6名	にじ	R2生
3歳	3名	3名	そら	R1生
4歳	2名	2名	つき	H30生
5歳	8名	7名	ひかり	H29生
計	36名	27名		
6歳	8名	8名	1年生	H28生
7歳	14名	14名	2年生	H27生
8歳	7名	7名	3年生	H26生
9歳	10名	10名	4年生	H25生
10歳	13名	13名	5年生	H24生
11歳	8名	8名	6年生	H23生
12歳	15名	14名	7年生	H22生
13歳	10名	8名	8年生	H21生
14歳	13名	13名	9年生	H20生
計	98名	95名		
合計	134名	122名		

少子化への危機感

このままで推移すると7年後には複式学級の編制も・・・

産山村の重要施策として



移住・定住の促進

現状として、保育園児世帯の17.4%がIターン、43.5%がUターン。

教育委員会として

うぶやまの子育て・教育のよさや魅力を発信

- 子育て世代に対する支援の拡充
- 地域とともにある園・学校の更なる推進
- 豊かな自然環境を活かした豊富な体験活動
- 進んだ教育システムの実践と地域と一体となった学力向上

(2)これまでの本村教育の取組①

- ▲昭和63年度からタイ・カセサート校とヒゴタイ交流を開始。
- ▲平成9～10年度に生涯学習市町村モデル事業指定により学社融合事業を展開。
- ▲平成12年度から子どもヘルパー事業を開始・継続中。
- ▲平成14年度からわいわいヒゴタイ土曜塾開始(平成19年度から放課後子ども教室に移行)。
- ▲平成16年度から県下に先駆け2学期制導入。
- ▲平成19年度に、村内2小学校(産山北部小学校、山鹿小)が統合して産山小学校となり、校舎も中学校舎と併設され、これを機に小中一貫教育スタート(小中一貫教育特区、平成21年度から教育課程特例校)。
- ▲平成21年度から学校支援地域本部事業を展開。
- ▲平成21年度にコミュニティースクールの指定、事業展開。
- ▲平成22年小中学校全教室に電子黒板等ICT器機を導入。
- ▲平成23年度から西日本初の土曜授業スタート。



(2)これまでの本村教育の取組②

- ▲平成25年度から保育園を教育委員会に移管。
- ▲平成27年3月 村子ども・子育て支援事業計画(第一期)策定。
- ▲平成27年度から「うぶやま夢塾」スタート。
- ▲平成28年3月 子ども議会での提案がきっかけとなったうぶやま天文台が開台。
- ▲平成28年度から放課後児童クラブを開設。
- ▲平成30年度から義務教育学校産山学園としてスタート。
- ▲令和元年9月 子ども議会での提案がきっかけとなった「山鹿川」名称復元記念式典開催。
- ▲令和元年10月うぶやま保育園の保育料完全無償化実施。
- ▲令和2年度 ギガスクール構想による環境施設整備事業完工
- ▲令和3年度 産山村教育大綱改定
- ▲令和4年度 山村留学検討



(2)これまでの本村教育の取組③

◇義務教育学校への移行の周知(村広報誌から)

これまでの小中一貫校は、小学校6年間、中学校3年間の修業年限の枠組みがあり、校長も各学校に1人ずつ配置されています。義務教育学校では6-3制の枠組みがなく、一つの学校として修業年限が9年間として一貫教育を進めいくこととなります。

▼義務教育学校に移行することにより、これまで本村が取り組んできた小中一貫教育をより充実・発展させることができます。また、校長の1人配置、一つの教職員組織になることにより指導系統が一本化され、共通指導等がより徹底されます。さらに、PTA組織も一つになり、役員等を選出しやすくなるとともに行事等の一本化が図られ、これまで以上にPTA活動が活性化し保護者同士のつながりが強まります。

◇義務教育学校の本質

- 新しい教科の創設が可能
- 履修内容の前倒し、後ろ倒しが可能

◇義務教育学校のメリットを伸ばし、デメリットの克服を

中1の壁・小中ギャップの緩和・解消

系統性・連続性を意識した小中一貫教育

異学年交流による精神的な発達

継続的な生徒に対する指導

中学受験で外部に出るのは特殊な事例となる

小学校卒業の達成感がない

小1と中3は差があり交流に課題がある

リーダーシップや自主性を養う機会が減る

人間関係が9年間固定化しやすい



2 本村教育がめざすもの

2 本村の教育がめざすもの (これまでの取組を踏まえて)

◇夢と活力, 優しさにあふれた産山村の創造◇

産山村教育大綱 4つの方向性



子供たちに「生きる力」を身につける教育を目指します。

産山を誇りに思う人づくりを目指します。

園・学校, 家庭, 地域, 行政が連携した教育を目指します。

生涯にわたり生きがいのある村づくりを目指します。

現代の教育的課題

- ◇人口減少社会における教育の在り様の確立
- ◇ソサエティー5.0時代に生きる児童生徒に必要な資質・能力の育成

めざすものは

産山で教育を受けてよかった、
受けさせてよかったと実感できる教育の創造

～0歳からの育ちをつなぐ一貫教育を通して～

- 1 子どもたちに確かな学力をつける。
- 2 郷土を知り、郷土を愛する子どもたちを育てる。
- 3 保育園・小学校・中学校の段差を低くして教育効果を上げる。
- 4 地域と保育園・学校が協力して、学校教育の充実を図る。

ローカルオプティマム

産山村の児童生徒に適した教育内容の創造と展開

＜産山村「夢創造」教育指導方針【教育理念】＞

産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造
～0歳からの育ちをつなぐ一貫教育を目指して～

ヒゴタイ交流を核とした
英語教育の充実

ICT教育の推進

系統性・連続性のある
確かな学びの確立

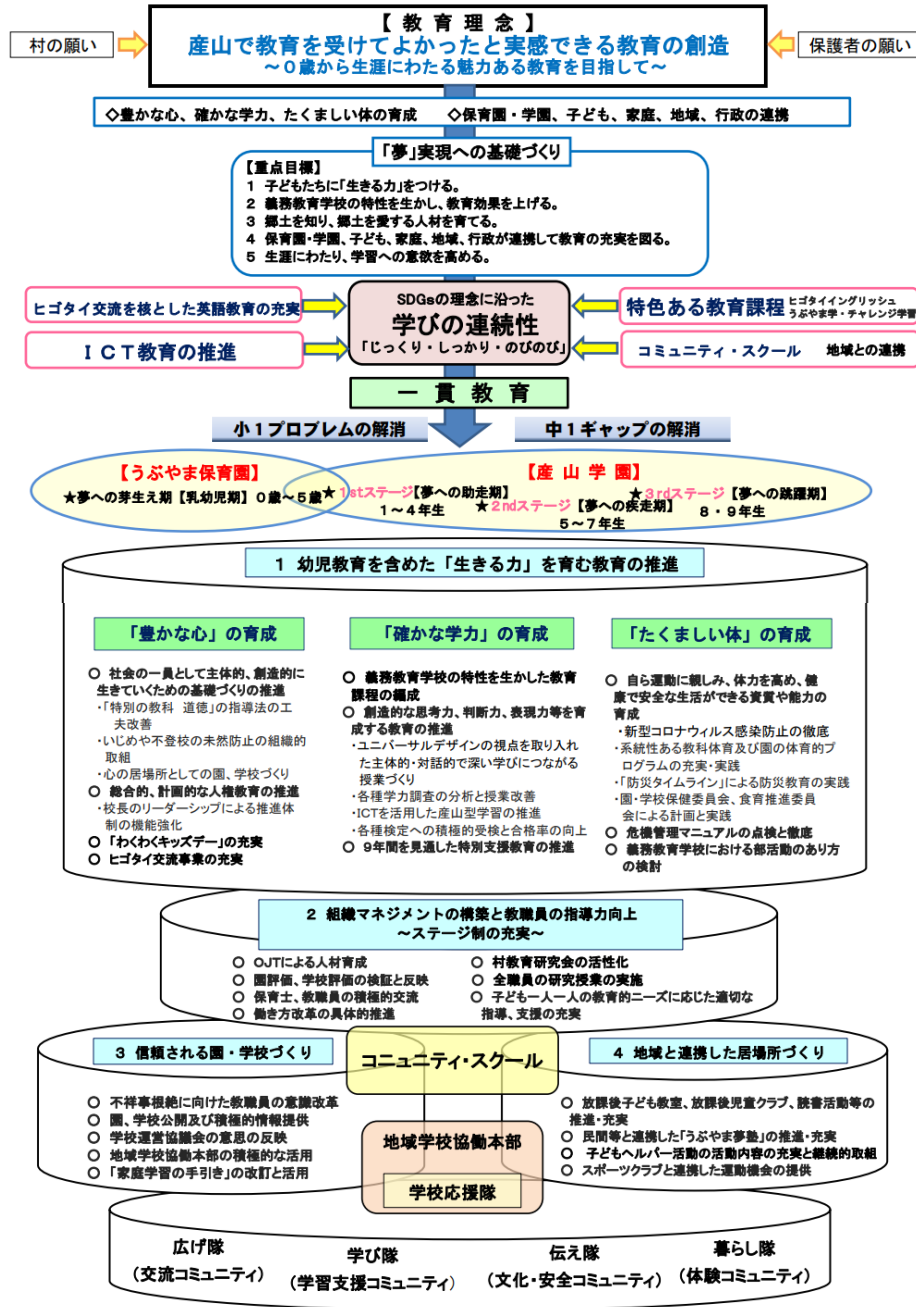
特色ある教育課程

ヒゴタイイングリッシュ・うぶやま学・チャレンジ学習

コミュニティ・スクール
(地域との連携)

学びの連続性・「じっくり」「しっかり」「のびのび」

- 1 子どもたちに確かな学力をつける。
- 2 郷土を知り、郷土を愛する子どもたちを育てる。
- 3 保育園・小中学校の段差を低くして教育効果を上げる。
- 4 地域と保育園・学校が協力して、学校教育の充実を図る。



3 取組の概要

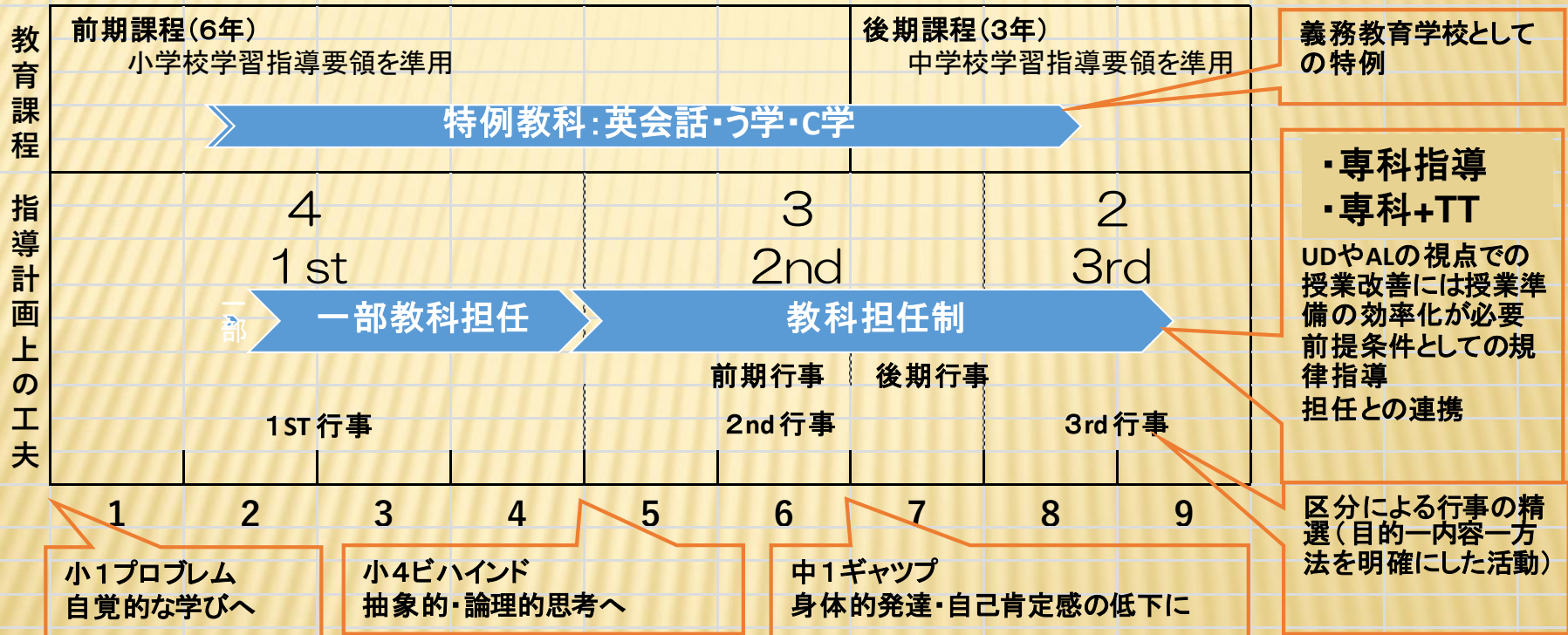
3 取り組みの概要

- (1) 教育システム(4・3・2制 評価システム 複数指導体制
教科担任制 土曜授業 連携システム)
- (2) 9年間の系統性・連続性のある確かな学びの確立
- (3) 特色ある教育課程の編成
 - ア 「ヒゴタイイングリッシュ」(英会話科・英語科)
 - イ 「うぶやま学」
 - ウ 「チャレンジ学習」
- (4) ICT教育の推進
- (5) 地域との連携(コミュニティ・スクール)
- (6) 教育委員会の取組

5 - 2 - 2制 → 4 - 3 - 2制へ

令和元年度より変更





学級・教科担任等の考え方



イ 評価システムの構築

二学期制によるきめ細かな評価（PDCAサイクル）

学年始 休業日	4/8 ~7/20	夏季 休業日	8/26 ~10/6	秋季 休業日	10/12 ~12/22	冬季 休業日	1/8 ~3/25	学年末 休業日
	1 学期				2 学期			

P → D →  C · A P → D →  C · A P → D →  C · A P → D →  C · A P

<PDCAサイクルによる確かな変革>

- ◆ 前期前半・後半、後期前半・後半の4つの学びのサイクルを生かした学校経営
- ◆ 通知表（あゆみ）による学習の様子等のお知らせ
- ◆ 学校運営協議会による評価と学校経営の改善

学力向上検証改善サイクル

令和4年度産山学園学力向上検証改善 (PDCA) サイクル ~学力向上に係る日頃の授業を改善~

学力強化月間



【目的】
年間を見通した学力向上プランを作成し可視化することで、全職員での実践につなげましょう。

- 県学調弱点克服ドリルで一人一人の課題の克服状況を確認【担任】
- 後期評価【担任】、学校評価【教頭】
- 自分で計画を立て勉強できるよう支援【担任】
- 次年度の取組計画策定、引継ぎ【教務部、研究部】

- 県学調結果分析及び共有 (成果・課題)
- 県学調個人票返却時の面談【担任】
- 課題克服プリントの活用による基礎・基本の定着【担任】
- 復習プリントで改題を克服 (クラス別、個人別)
- 校内研 (学力向上)

- 課題に応じた補充問題の実施
- 課題についての授業改善【教務部、担任】

- 校内研 (大研②)
- 熊本県学力・学習状況調査実施 (12/1~12/9)
- 県学調問題を確認し、フォローが必要な部分を調査実施直後に確認【担任】

学力強化月間

- 個に応じた支援の充実【担任】 (基礎・基本の確実な定着)
- 県学調過去問と課題克服プリントの実施【教務部、担任】

前期

P

4月

確かな学力



日常的な取組 (年間を通した取組)

- 全てのクラスで「産山型学習」の展開
- 単元のゴールの姿を設定 (単元デザイン)
- 授業とリンクした家庭学習 ○ 英語、英会話
- タブレットPC活用 ○ チャレンジ学習
- 教科担任制 ○ 研究推進委員会

10月

P

後期

- 学校教育目標及びグランドデザイン策定
- 校内研究テーマ設定【研究部】
- 全学調問題の内容確認【全職員】
- 全学調の過去問題実施【教務部】
- 標準学力検査実施
- 全国学力・学習状況調査実施 (4/19)

- 家庭学習や宿題の在り方等について学校と家庭での共通理解【教務部、担任】
- 標準学力検査分析・課題の明確化【教務部、担任】

- 全学調分析・課題の明確化【教務部、担任】
- 課題改善プランに基づく学習指導の改善【担任】
- 校内研 (大研①)

- 授業改善の取組【研究部、担任】
- 校内研 (中研①)

- 全学調結果公表
- 全学調結果分析 → 指標、目標値等の見直し【研究部、担任】

- 校内研 (中研②)
- 授業改善の取組【担任】

学力強化月間

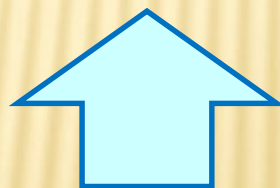
- 校内研 (1学期振り返り)
- 県学調過去問と課題克服プリントの実施【教務部、担任】
- 標準学力検査個人票返却及び個人面談【担任】、学校評価【教頭】

ウ 複数指導体制

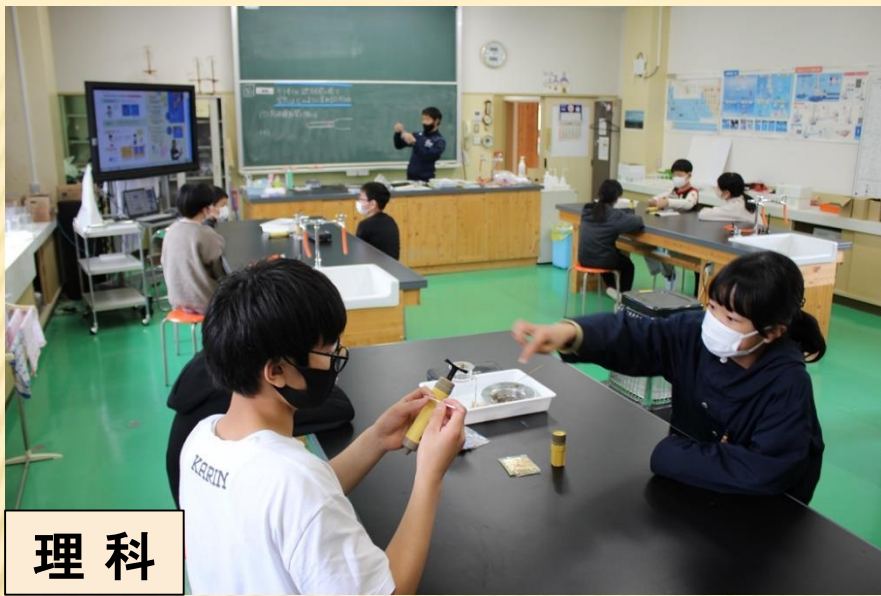
〈英語科・英会話科〉



〈算数科〉



義務教育学校となり以前は必要だった兼務辞令が不要に



理科



音楽科

工 教科担任制



英語科



プログラミング教育

才 土曜授業の取組

土曜授業導入の経緯・・・教育課程編成上の経緯

- ① 平成19年 小中一貫教育特区認定による特別な教育課程の実施
 - 小学校は総合的な学習の時間を中学校は総合的な学習の時間と選択教科等の時数を0とし、1年生から9年生まで系統的に学ぶ地域学習である「うぶやま学」、漢字検定や算数・数学検定にチャレンジする「チャレンジ学習」、1年生から9年生まで学ぶ英会話と小6の「英語科」を核とする「ヒゴタイイングリッシュ」を創設。
 - 標準的な総授業数各学年980時間に対し、本校は7、8年生は+35時間、9年生は+30時間を上乗せ。→二学期制のメリットを生かして編制。
- ② 平成21年～平成22年度 文科省承認教育課程特例校による特別な教育課程の継続
 - 移行措置を見据えての本校の教育課程の編成
 - 標準的な総授業数各学年980時間に対し、本校は7、8年生は+35時間、9年生は+30時間を上乗せ。→二学期制のメリットを生かして編制。
- ③ 平成24年 新学習指導要領全面实施
 - 文科省承認教育課程特例校による特別な教育課程の継続（変更届）
 - 総授業数増加に対応する本校の教育課程の編成
(これまでの特色ある教育課程の積み重ねを損なわないように)
 - 標準的な総授業数各学年1015時間に対し、本校は7年生は+55時間、8と9年生は+35時間を上乗せ。→二学期制のメリットと土曜授業実施を生かして編制。

土曜授業導入の経緯・・・土曜授業実施までの経緯

- ① 平成22年度から、学校運営協議会等で話題となり、教育委員会と学校で土曜授業実施について東京都の事例等をもとに研究を始める。県とも合議。
- ② 平成23年4月15日付、産山村教育長より「産山村立小中学校における授業等実施に係る留意点について」の文書を発出。
- ③ 平成23年度は、小学校で年4回、中学校で年10回の土曜授業の試行を計画。
- ④ 平成23年4月、小中学校PTA総会、学校通信、その他の会合等で保護者、地域に説明。
- ⑤ 平成23年6月11日、小中学校で第1回の土曜授業を実施。チャレンジ学習とうぶやま学（子どもヘルパー）、社会教育課より視察、読売新聞より取材。
- ⑥ 平成25年3月19日、県より「熊本縣市町村立学校職員の勤務時間及び休日休暇に関する条例の施行について」発出。→当該土曜日の前8週間、後16週間
- ⑦ 平成25年度は小学校で年4回、中学校8回実施、平成26年度は小学校で年9回、中学校で年10回実施予定。

平成23年4月15日発出文書

「産山村立小中学校における授業等実施に係る留意点について」

基本的な考え方

新学習指導要領の全面実施に向け、「生きる力」の育成や家庭・地域との連携・協力が一層求められている中、**学校週5日制の趣旨を踏まえ**、特色ある教育活動や保護者地域住民等に、**開かれた学校づくりを進める観点から実施できるものとする。**

内 容

- (1) 教育課程特例校（小中一貫教育）における特色ある取組に係る授業
- (2) 学校と教育委員会が連携して実施した方が、より教育効果が上がると考えられる授業
- (3) 地域人材を活用するなど、学校と保護者・地域住民等との連携・協力を図ることで、より教育効果が上がると考えられる授業
- (4) 保護者・地域住民等への教育内容の公開授業

令和5年度 土曜授業 計画

回	日付	おもな活動
1	5/20	産山学園・校区民合同体育祭
2	7/ 8	授業参観、PTA例会、 救急救命法講習、学級懇談会
3	10/28	校内持久走大会
4	11/11	学習発表会
5	12/ 2	村主催人権集会
6	1/27	祖父母参観
7	3/9	卒業証書授与式



カ 学びをつなぐ連携システム

- △ 保育園との連携
- △ 前期課程での教科担任制
- △ 学園全体の相互共通指導
- △ 授業の複数指導体制
- △ 共通の生徒指導体制
- △ 教職員の研修（研究）



▲ 入学式



▲ 学習発表会



▲ 卒業式

0歳からの育ちをつなぐ～15の春を輝かす～

産山村 家庭学習の手引き（第2版）

夢創造 0歳から15歳までの家庭学習

～家庭・保育園・学園が連携して家庭学習の習慣化を図りましょう～

保存版



平成31年3月

産山村教育研究会

産山村教育委員会

※0歳から中学生までの保護者に配付



▲9年保育実習



▲職員保育体験

△平成25年度から保育園を福祉部局から教育委員会管轄下に置く。

保小中一貫プログラム「わくわくキッズデー」年間計画

令和5年度 わくわくキッズデー計画

令和5年4月19日
保育園・学園連携担当

☆こんな産山の子どもたちに

We have a dream 私たちには、夢がある

☆交流の具体的内容

月	交流内容・日程	保育園	1年	2年	3年	担当
4	【担当者会】 7日(金) 組織の確認、役割分担、計画立案	○	○	○	○	学園
5	【産山学園・校区民合同体育祭】 ○ 予行演習 16日(火)→午前中：出番をみて参加 ○ 体育大会当日20日(土)→内容：徒走、遊戯(本年度は中止) ※打ち合わせは随時電話連絡(田上)	○	○			学園 (概略)
	【芋のなえ植え】 23日(火) 10:00~11:30※保、3年(藤島)(う学) 予備日25日(木)	○	○			保 3年
6	【歯科指導】 5日(月) 養護教諭→保育園に向いて ※事前に、日程・内容の検討	○	○	○		学 養護
7	【学校体験交流】 10日(月) 3校時 10:40~11:25 ※保、2年(北窓)→体育(晴：水遊び 雨：体育館遊び)	○	○			学 2年
	【保育実習】 9年生の家庭科(東) ※6月19日の週に決定	○	○			保 学
	【職員による保育園訪問・保育体験】 7/24, 25, 27日(月・火・木) (9:30~12:00) ※活動の様子観察を中心に行う。できるだけ多くの職員が参加できる よう日程を調整する。(人数制限が考えられる場合は、本年度転入 された職員を中心に調整する。)	○	○	○		学 連携 担当
9	【保育園運動会】 日時未定	○	○	○		教委 保
11	【就学時健康診断】 日時は未定	○	○	○	○	教委
	【就学時健康診断結果の報告会】 できれば検診と同日に	○	○	○	○	学
1	【授業体験】 18日(木) 10:30~11:30(給食体験なし) 保、1年→生活科	○	○			保学 1年
2	※2月初旬に入学に必要なものを保育園から。 【1日体験入学・保護者説明会】 22日(木) 13:45~16:20保、3(新4)年→学活(学校案内)	○	○	○	○	学 3年
	【保学連絡会】 3月最終週 ※保育要録を活用した引き継ぎ	○	○			保学

・担当・・・事務局長：井(ふみお) 保育園：志賀・宮川 学園：北窓・本田 教育委員会：井(くにひこ)

・担当は、日程・時間の調整、打ち合わせをし、具体的な実施計画の作成、実施後の反省を記録する。

・令和5年度 年長児：7名(男子2名、女子5名)



▲芋苗植え



▲プール遊び・交流



▲新入生体験入学

3 取組の概要

**(2) 9年間の系統性・連続性のある
確かな学びの確立**

(ア) 9年間の統一学習過程である「産山型学習」

産山型学習

過程	児童生徒の視点から	授業者の視点から
① の 課 題 今 は 日 ？	◎学習課題（めあて）をつかむ。 ・学習課題（めあて）を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。	◎目標の明確化 ・学習意欲と見通しを持たせるための徹底指導 ※授業前（目標分析・指導計画・実態把握）
② う っ ひ か と っ り て で み よ	◎ひとり学び（個人思考）で課題解決に取り組み、自分の考えを持つ。 ・学習課題についてしっかりと考え、それを書くなどして自分の考えを持つ。	◎ひとり学び（個人思考）の時間の確保 ・「読む」「書く」などを位置付けた言語活動の工夫。 ・評価活動（ステップなど）とそれを生かした個別指導。
③ み ろ ん う な で ！	◎学び合って、学習課題（めあて）を解決する。 ・友達と話し合い、さらに考え、学習を深める。 ・先生の話をしっかり聞き、問題を解いたり深まった考えを書いたりしてまとめ、学習課題を解決する。	◎個人思考から小集団・集団思考への相互啓発 ・「話す」「聞く」などを位置付けた言語活動の工夫 ◎課題解決のための徹底指導 ・学習内容の整理 ・評価活動とそれを生かした個別指導
④ 返 と ろ め う 振 り ！	◎学習を振り返り、つなげる。 ・自分や友達ののびを振り返り、その良さを認め、次時につなげる。 ・学習したことを振り返る。	◎達成感を味わわせる自己評価の工夫 ・自己評価カード等の作成・活用 ・次時の予告と意欲付け

産山型学習

過程	学習活動
① う ～ ん 今 日 の 課 題 は ？	◎ 学習課題（めあて） をつかむ。
② ふ っ か っ て み よ う ひ と り で	◎ 一人学習で課題解決 に取り組み、 自分の考え を持つ。
③ や ろ う み ん な で	◎ 学び合って、学習課題（めあて） を解決する。
④ ま と め 振 り 返 ろ う	◎ 学習したことを振り返り、解決して分かったことをまとめよう。

(ア) 9年間の統一学習過程である「産山型学習」

R4年度 「熊本の学び」を自校化した産山型学習

共通実践事項

産山型学習

過程	児童生徒の視点から	授業者の視点から
う～ん 今日の 課題 は?	<p>◎めあてや学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてや学習課題を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。 <p>「なぜ」「おそらく」(疑問や予想)</p>	<p>◎めあての設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のゴールの姿の明確化 <p>◎学習課題の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 切実感のある学習課題を立て、興味関心を高める。
ぶっ かって みよう ひとり で!	<p>◎ひとり学びで課題解決に取り組み、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を自分ごととして捉え、根拠を明確にした自分の考えをもつ。 <p>「やってみよう」(挑戦)</p>	<p>根拠を明確にする。</p> <p>論理的思考を促す。</p> <p>ひとり学び (個人思考)</p> <p>学び合い (小集団・ 集団思考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 書く活動の工夫 思考ツールの効果的活用(分析) ICT機器の効果的活用(思考の視覚化・共有)
やろう みんな で!	<p>◎学び合って、学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの考えを伝え合い、自己の考えを広げ、深め、学習課題を解決する。 <p>「なるほど」「きっと」(納得感)</p>	
まとめ ふりか えろう!	<p>◎まとめ、ふりかえり、次時へつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> わかったことを確認し、何を学んだのかを明確にする。 何ができるようになったのかを自分自身で振り返り、次時の学習につなげる。 <p>「わかった」「できた」「もっとやってみよう」 (実感や達成感, 更なる意欲)</p>	<p>◎学びを実感できる主体的なまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供の言葉でまとめる手立て めあてや学習課題との整合を図る。 <p>◎学びを実感できる主体的な振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりの視点(あかうしどん)をもたせる。 次の学習への意欲をもたせる評価の工夫

指導と評価の一体化

振り返りの工夫



あ

あ～なるほど！
と、思ったこと

か

考えさせられた
なかまの意見

う


う～ん、と
ぎもんに思ったこと

し

しらべてみたい
もっと知りたいこと

どん

どんなことに
学びを いかす？



(イ) 保、学園の学びをつなぐ「家庭学習の手引き」

産山村 家庭学習の手引き (第2版)

夢 創 造

0歳から15歳までの家庭学習

～家庭・保育園・学園が連携して家庭学習の習慣化を図りましょう～

保存版



平成31年3月

産山村教育研究会
産山村教育委員会

産山村家庭学習の手引き

「0歳から15歳までの家庭学習」

(産山村教育研究会・産山村教育委員会作成)

<主な内容>

- 各学年における家庭学習習慣化のめあてとポイント
- 学習時間のめやす
- 家庭学習の内容と方法

(イ) 学びをつなぐ「家庭学習の手引き」

家庭学習の課題

- 家庭学習の習慣が身に付いていない。(学習時間の不足)
- やらされる宿題で終わり、自分から学ぶ意識が足りない。
- 学習に集中できず、学習意欲が不足している。
- 家庭学習の内容や方法がわからない。



- 学習の流れ(順番)を決めて、宿題と自学で計画的に学習します。
- 「始める時刻」「場所」「学習量」の約束を決め、継続的に学習します。
- 家庭学習の環境を整え、約束に従って集中して学習します。
- 「産山村 家庭学習の手引き」を活用し、目標を持って学習します。

自ら学ぶ力

ポイント1
「家庭学習の流れ」を決める。

「宿題」⇒「自学A」⇒「自学B」の順序で学習する習慣を身に付けよう。

<チェック>

- 「計画的・継続的な学び」が進められていますか？
- 「進路に向けて目標を明確にして」取り組んでいますか？

計画(学習の順序)

宿題

自学A

自学B

1日の授業を振り返り、学習計画を立てる。(5分程度)

- ◆ 教科書やノートに目を通し、1日の学習を振り返る。
 - 期日までに提出しなければならない宿題はないか。
 - 分からなかったところや、新たな疑問が出た学習はなかったか。
 - もっと知りたいと思った学習はなかったか。
- ◆ すべきことから学習の順序を決める。

今日やらなければならない学習(宿題)にチャレンジする。

- ◆ 「日記」など、毎日しなければならない宿題をする。
- ◆ 明日(期日まで)に提出しなければならない宿題をする。
 - 【例】・学年で指示されている日記を書く。
 - ・各教科から出されているプリントやワーク(問題集)を解く。
 - ・○分間スピーチの準備。
 - ・次の授業までに指定された予習をする。

教科書・ノートを活用し、授業の予習や復習にチャレンジする。

- ◆ 授業の予習や復習など、自分の課題克服のための学習に取り組む。
- ◆ 定期テストや単元テストなど、目標に向け、自分で計画を立てて自学に取り組む。
 - 【例】・学習のめあて「課題」と「振り返り」を書き出してみる。
 - ・次の時間に学習する内容について、読む、調べる、疑問を書き出す。

自分を高めるために学びたいことにチャレンジする。

- ◆ 自分の課題克服のため自分で続けている自学に取り組む。
- ◆ 興味・関心を持った学習テーマなど、自由に取り組む。
- ◆ 読書に親しむ。
 - 【例】・興味を持ったことについてレポートを書く。
 - ・新聞を読んだ感想を書く。
 - ・読んだ本の感想を書く。
 - ・検定試験(漢検・英検・数検)対策

家庭学習のサイクル



知識や技能を身に付ける習得サイクル



ポイント2
「学習の約束」を決める。

- 1 始める時刻を決めよう。
- 2 学習場所を固定しよう。
- 3 学習量の目安を決めよう。

<チェック> 私の家庭学習の約束

- 始める時刻は _____ 時 _____ 分です。
- 学習場所は _____ です。
- 学習量の目安は _____ 時間 _____ 分です。

※毎日の学習時間を記録していきましょう。

ポイント3
「学習環境」を整える。

- 1 学習場所を整理整頓しよう。
- 2 必要な準備をしてから学習しよう。
- 3 終わったら、次の日の準備をしよう。

<チェック>

- 学習する場所は、集中して学習できる環境ですか？
- 途中で中断しなくてよいように、始める前に学習に必要なものが準備されていますか？
- 学習が終わったら、片付けといっしょに次の日の準備までできていますか？

ポイント4
「産山村家庭学習の手引き」を活用する。

○ どんな内容をどんな方法で勉強すればよいか参考にしよう。

<チェック>

- 学習の目標をしっかりと持っていますか？
- 目標に合った勉強の仕方を工夫していますか？
- 先生方のアドバイスを生かしていますか？
- 自分の力になる家庭学習になっていますか？

「家庭学習ガイドライン」(後期)

(ウ)

R4産山学園の研究

～テーマ（2年次）～

「主体的に学習に取り組み、考えを深める授業の創造」



仮説：うぶやま型学習をもとに、根拠を明確にした自分の考えをもたせ、それらを表現し合う活動を設定することで、主体的に学習に取り組み、考えを深めることができるであろう。



視点1：思考ツールの効果的活用

視点2：ICT機器の効果的活用

視点3：書く活動の工夫

～広げよう夢を 輝かせよう命を～

育成を目指す資質・能力 (アクション・シンキング・チームワーク)

↑
各教科等の資質・能力

主体的に学習に取り組み、考えを深める授業の創造

「熊本の学び」の推進

「GIGAスクール構想」
の実現

仮説：産山型学習を基に、根拠を明確にした自分の考えをもたせ、それらを表現し、学び合う活動を展開することで、児童生徒は主体的に学習に取り組み、考えを深めることができるであろう。

視点①：書く活動の工夫

視点②：思考ツールの効果的活用

視点③：ICT機器の効果的活用

↑
教育の今日的課題 学園生の実態 家庭・地域の願い 教師の願い

「熊本の学び」授業実践の7つのチェック

【授業者の省察に生かす】

熊本のすべての子供たちが「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を育むための授業実践のチェックリストを作成しました。各学校での授業実践の振り返り（省察）等に活用してください。

「産山学園」授業実践4つのチェックリスト+2（熊本の学びの自校化）

【授業づくり・授業参観の視点】

産山学園のすべての子供たちが「主体的」に学び、考えを深める「創造性（思考力・判断力・表現力等）」のため、授業作りや授業参観の視点としてご活用ください。（重点取り組み事項）

番号	観点	チェックリスト		授
		子供の姿 (※熊本の学び推進プラン)	チェック ✓	
1	日常 学級づくり	(子供たちは)互いに失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりしている。		授 □支持的風 (一人一人の 認め、ほめ、)
2	単元	単元ゴールの姿	(子供たちは)単元終了時の姿を共有している。	授 □単元のデ (どんなこと になったらい の学びにど 的にイメージ
3		全体	(子供たちは)「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組んでいる。	授 □単元を道 (ゴールの 学習課題や
4	単元や 一 単位 時間	導入	(子供たちは)「なぜ」「おそろなど、疑問をもったり予想して学習に取り組んでいる。	
5		展開	(子供たちは)「やってみよう」るほど」「きつと」など、挑戦し納得したりして学習に取り組んでいる。	授 など)
6	終末	(子供たちは)「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組んでいる。	授 □学習内容 振り返り(必 価)との整合 ント)など)	
7	個に応じた指導	(子供たちは)自分の習熟度に合った課題などに取り組んでいる。	授 □児童生徒 に応じた指導 (補充的な学 など)	
※	ICTの活用	(子供たちは)ICTの活用により、学ぶ意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。	授 □効果的な CTの活用 (学習活動で して活用)	
※	板書の工夫	(子供たちは)板書を基に学習の流れを振り返っている。	授 □学習過程 された板書の (構造的な板	

番号	観点	チェックリスト (子供の姿)	授業改善(例)	1学期の振り返りと 2学期に向けて	2学期の振り返りと 来年度に向けて
1	単元 ゴール の姿	(子供たちは)単元終了時の姿を共有しているか。	□単元のデザイン (どんなことが分かり、できるようになったらいいの、実生活や次の学びにどう生かすのかを具体的にイメージした指導 など)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2	導入 (う)	(子供たちは)「なぜ」「おそろく」など、疑問や予想をもったり、つぶやいたりして意欲をもって学習に取り組んでいる。	□問いやつぶやきを引き出す工夫 (言葉かけ、教材提示、切実感のある学習課題など) □子供の言葉でめあてを立てる工夫 (問題解決型のめあてなど)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3	展開 (ぶ ・や)	(子供たちは)「やってみよう」「なるほど」「きつと」など、挑戦したり納得したりして個人やペア、グループ等で学習に取り組んでいる。	□書く活動の工夫 (考える場面・書かせる場面) □思考ツールの効果的活用 (比較・分類・関係づけなど)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4	終末 (ま)	(子供たちは)「分かった」「できた」「もっとやってみよう」等、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組んでいる。	□子供の言葉を生かしたまとめ (学習内容や何を学んだかがわかる板書の工夫) □自らの学びや自己の変容がわかる振り返り (「あ・か・う・し・どん」の視点や未来向きの振り返りなど)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
*	ICT 機器の 活用	(子供たちは)ICTの活用により、学ぶ意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。	□ICTの効果的活用 (思考の視覚化、学習活動での活用、提示資料として活用)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
*	板書の 工夫	(子供たちは)板書を基に学習の流れを振り返っている。	□学習過程が分かるように整理された板書の工夫 (子供の言葉に着目した板書や構造的な板書など)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

(2) 第4学年「国語科」の実践

単元名	事実を分かりやすくほしくしよう「新聞を作ろう」	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
新聞を協働で作るとい活動を通して、伝えたいことの内容を明確にし、写真や図表を組み合わせながら構成を考え、事実を分かりやすく報告することができる姿。		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方	
どのようにしたら、伝えたいことを読み手にわかりやすく伝えることができるだろうか。	相手や目的に応じて調べたり、組み立てを考えたり、引用や要約を用いたりして、限られた紙面で伝えること。	
研究の視点	視点③ ICT機器の効果的活用	



(3) 第6学年「国語科」の実践

単元名	詩を味わおう(光村図書P.92~93)	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
これまでの詩の学習で身に付けてきた表現の工夫を使い、日常生活を題材にした詩を作り、良さを伝え合う児童。		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方	
表現の工夫を使った日常生活を題材にした詩を作り、伝え合おう。	比喻や反復などの表現技法に着目し、作品を読んだり書いたりすることを通して、その良さを理解し、言葉への自覚を高める。	
研究の視点	視点① 書く活動の工夫	



(4) はばたき学級（自閉症・情緒障がい学級） 自立活動の実践

題材名	夏休みの学習計画を立てよう	
	単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
	○夏休みの学習計画を立てる方法を身に付けている。 ○夏休みの宿題を終わらせる見通しを持つことができている。	
	単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方
	計画を立てるために必要なことを理解し、自分に合った学習計画を考える。	自分の学習ペースにあった学習量と時間の配分の仕方を考える。
研究の視点	視点③ ICT 機器の効果的活用	

期待
計画的に学習
し、今後の学習
姿。

夏休みの学習
きる。

学習計画を立
つけるといい



を立て、

(5) 第3学年「うぶやま学」の実践

単元名	『うぶやま茶』プロジェクト UBG ニュース うぶやま茶を世界に広めよう！	
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）		
「うぶやま茶」を通して、自分のやりたいことに気づき、そのためにやらなければならないことについて自ら学び考え、考えたことを表現することによって、その考えを広め、やりたいことを実現しようとする姿。		
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方	
<ul style="list-style-type: none"> ・お茶にはどんな良さがあるか。 ・うぶやま茶を活かしてどんなことをしたいか。 ・うぶやま茶で学んだことをどのようにして広めたいか。 上の内容を「書くこと」「話すこと」 ※UBG ニュースで発信しよう！！	うぶやま茶について体験を通して理解し、その良さを広めるために、自分たちにできることを考え、生き方を問うこと。	
研究の視点	視点③ ICT 機器の効果的活用	

クラゲチャート

ロイ
表の

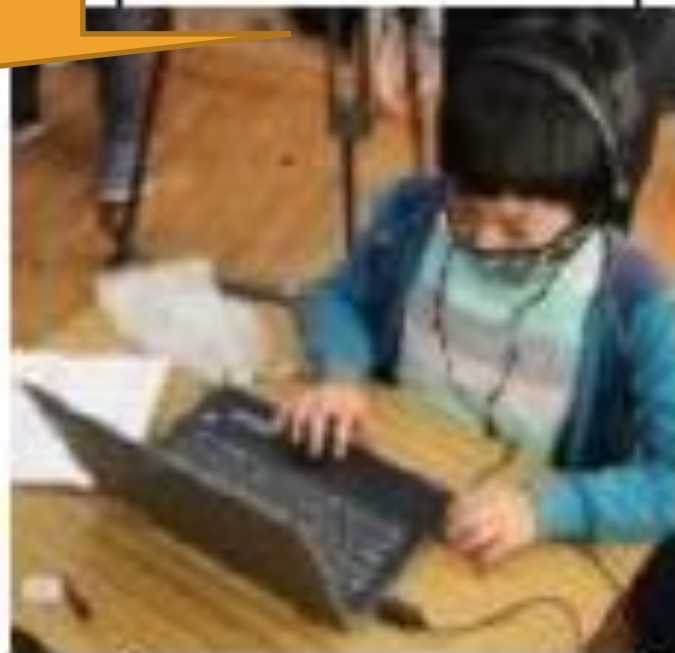
UBG
いい
スを



に発

おう。
バイ

・お
伝
声



(6) 第8学年「保健体育」の実践

単元名	器械運動(跳び箱運動)	
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
仲間と協力して学習する中で、跳び箱運動(器械運動)に関する理解を深め、技の出来映えを高めることを通して、楽しさや喜びを味わい、自己の課題を解決しようと積極的に取り組む姿。		
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方	
基本的な技の出来映えを仲間と高めながら、跳び箱運動を楽しみ、できたときの喜びを味わおう。	跳び箱運動(器械運動)の技ができる楽しさや喜びとともに、体力の向上に果たす役割に着目して、「基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越す」「ポイントや技の出来映えを見る」「仲間への補助や助言をして支える」「跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方などを知る」といった多様な関わり方と関連付けること	
研究の視点	視点③ ICT 機器の効果的活用	フィッシュボーン



忍支

よ

)



(7) 第2学年「算数科」の実践

単元名	「九九をつくろう」(東京書籍「新しい算数2下」P29~50)	
	単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	
	数量の関係を考えるときに、乗法に関する性質やきまりを用いたり、乗法九九を総合的に活用したりしながら、問題を解決し、計算を日常生活に生かそうとしている児童	
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方
これまでに学習した九九を使って九九のつくり方を考えよう。		数量の关系到着目し、乗法九九を総合的に活用することを通して、問題を解決すること。
研究の視点	視点③ ICT機器の効果的活用	



期待さ

乗法九九を使った計
方を説明している姿
(例)3こをあいてい
のまとまりにする。6こ
あるから $6 \times 4 = 24$

●の数をく

学
かんたんなもと

つくり、かけ算を
もとめられる。

(8) 第8学年「英語科」の実践

単元名	Unit 6 Research Your Topic (New Horizon English Course 2 P.83～)	
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
<p>(1) 比較表現を用いて、複数のものの特徴を比べて伝えることができる。[知能及び技能]</p> <p>(2) 自分の関心のあることについて学級内調査をして、その結果を伝えるために、複数のものや情報の特徴を比べて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を伝えることができる。[思考力,判断力,表現力等]</p> <p>(3) 相手に配慮しながら、自分の関心のあることについて学級内調査をしてその結果を伝えるために、複数のものや情報の特徴を比べて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を伝えようとする。[学びに向かう力,人間性等]</p>		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	調査や発表の効果的なやり方について考えるために、「修学旅行の班別活動」について、8年生に人気のあるもの(お土産、名所、昼食など)を調査して、その結果を発表しよう。	本単元で働かせる見方・考え方
研究の視点	視点② 思考ツールの効果的活用	学級の友だちの興味・関心に配慮しながら、調査に必要な情報や適切な質問を考え、結果についてグラフや表の特徴を比較しながらわかりやすく伝える英語表現を工夫すること。
		ロイロノートの思考ツール & Formsアンケート

期待される学級の姿

調査や発表の効果的なやり方のために、修学旅行についている。

めあて

学級の友達に「修学旅行の調査するアンケートの質問

学習課題

どのような内容のアンケートに調査できるのだろうか。



まとめ

、「～で一番・・・は何ですか、使い、例を示すなどの相めながらインタビューする。

ミニ(見)授業参観の取組

～先生版「あかうしどん」～

あ→→あーなるほど!参考にしたい!

か→→考えさせられました!あの発問、あの声掛け、あの仕掛け。

う→→うーん、こういう方法はどうでしょう。

し→→知りたい!どうやっているんですか?

どん→どんなときに、使えそうかな。

3 取組の概要

(3) 特色ある教育課程

(3) 特色ある教育課程の編成

(ア) ヒゴタイイングリッシュ

【ヒゴタイ交流を核とした英語教育】

(英会話科・英語科)

教育課程の編成（令和5年度）

学年 教科等	1ステージ				2ステージ			3ステージ	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
英会話科	20	20	20	20	35	35	35	35	35
外国語活動 英語科			35	35	70	70	140	140	140
うぶやま学	34	35	45	45	45	45	45	45	45
チャレンジ学習			35	35	35	35	35	35	35

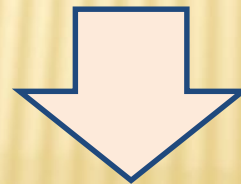
ヒゴタイイングリッシュ科



英語科



英会話科



「読む」「聞く」「話す」「書く」の確かな習得

ヒゴタイイングリッシュ創設の背景となった タイとの国際交流『ヒゴタイ交流』

ヒゴタイ交流とは昭和63年度(1988年)より産山村と中学校が一体となり始められたタイ王国国立カセサート大学付属中学校との交流(通称ヒゴタイ交流)である。

「ヒゴタイ」とは村花のヒゴタイと「肥後(熊本)とタイ」を掛けた名前である。



村花:ヒゴタイ

「村独自の誇りある教育を」という思い

村内に建設中のダムで技術を学んでいた、東南アジアの研修生を産山中に招き、講演会などを開き国際理解教育。

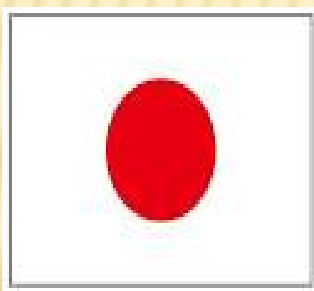
農水省の職員に「身近なアジアの国と交流を始めたい」と打診

同省から国際協力事業団(現国際協力機構)に出向しタイに滞在中だった同僚にカセサート校を紹介される

昭和63年7月に協定書(題名「カセサート大学付属校及び産山村・産山中学校間の姉妹校交流に関する議事録」)を締結

交流生の構成は原則として男子生徒2名、女子生徒2名、引率教師1名の計5名

お互いに長期休業（産山：夏休み、タイ：10月）を利用してそれぞれの家庭に3週間ホームステイして、授業、各種行事、小旅行等に参加



国際交流

相互理解や国際親善という目的を十分に果たしている。

これまでの派遣生の人数

第1回 (4) 第2回 (4) 第3回 (4) 第4回 (4)
第5回 (6) 第6回 (4) 第7回 (4) 第8回 (4)
第9回 (4) 第10回 (6) 第11回 (4) 第12回 (4)
第13回 (4) 第14回 (4)
第15回 (0) 第15・16回 (5)
※2003年度SARSのため派遣・受け入れともに中止
第17回 (4) 第18回 (4) 第19回 (4) 第20回 (10)
第21回 (5) 第22回 (5) 第23回 (4) 第24回 (4)
第25回 (9) 第26回 (4) 第27回 (4) 第28回 (4)
第29回 (4) 第30回 (6) 第31回 (4)
第32・33・34回 (0)

令和5年度 第35回 (4) 予定

※2009年度新型インフルエンザのため派遣・受け入れともに中止
(3月に1週間4名派遣)

※2020～2022新型コロナウイルス感染症のため派遣・受け入れともに中止

派遣生計 **140名**



夏季休業中の3週間、4名の生徒を派遣 ホームステイをしながら、カセサート大学付属中学校で学校生活を送り交流

産山学園生のタイでの様子



タイ交流生の日本での生活

- 交流期間中本校生徒と共に各教科2～3時間の授業を受ける。
- 放課後の時間に「文化交流プログラム」を設定し、日本文化や部活動等の体験活動を行う。
- 行事等では、記念植樹・高校での文化体験・研修旅行・料理教室・伝統芸能の体験等と盛りだくさんのプログラム。
- 交流生は学校においては本校生徒と共に、家庭生活においてはホストファミリーと共に、日本の生活習慣・文化を学習する。休日はホストファミリーの方で計画され、観光地に行ったりショッピングを楽しむ。

タイ王国からの受入れの様子

R 1



通常、9月～10月の3週間、4名のカセサート校交流生を受入れ、ホームステイをしながら産山学園で学校生活を送り交流を深める。

英語力を発揮しながら国際理解を深める



ヒゴタイイングリッシュ

各教科の授業

- 平成29年秋、受入れ30周年の節目を迎え、日タイ修好130周年記念事業として歓迎式典を実施（10月16日）



ヒゴタイ交流の成果

回を重ねるごとに、積極的交流がみられるようになった。本校からの派遣生以外の生徒が10月の受け入れの際にカセサート校の生徒と積極的に関わっている姿も多々見られる。

互いの国の文化や伝統を理解し、言葉の壁を乗り越え、心と心を通わせることによって、国際社会の一員としての自覚を深めるとともに外国語学習への意欲が高まってきている

平成19年度からの小中一貫教育の実施に伴い、小学校からの英会話学習につながった。学力調査等の結果からも、聞くことや話すことの観点で高い数値がみられる。

オンライン交流 THE ONLINE MEETING

令和3年度 令和4年度



ヒゴタイ交流再開に向けての訪タイ

VISIT THAILAND TO RESUME THE PROGRAM

令和4年12月





ヒゴタイ交流再開に向けて タイから訪問団
令和5年4月14日

(3)特色ある教育課程の編成

(イ)うぶやま学

教育課程の編成（令和5年度）

ステージ 学年 教科など	1stステージ				2ndステージ			3rdステージ	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
英会話科	20	20	20	20	35	35	35	35	35
英語科					70	70	140	140	140
うぶやま学	34	35	45	45	45	45	45	45	45
チャレンジ学習			25	25	25	25	25	25	25

うぶやま学

地域との連携や地域人材の活用を通して、体験活動を重視した学習を展開し、子どもたちの心を豊かにするとともに、「産山」に誇りを持ち、将来の自己の生き方を考えていく学習



うぶやま学

生活科

総合的な学習の時間

身につけさせたい力

○課題解決能力

○コミュニケーション
能力

○情報活用能力

○計画実行能力

体験活動

産山に誇りを持ち、自分の生き方を考える

地域力

▲学校支援地域本部事業（地域人材の活用・関係機関との連携）

令和4年度 「うぶやま学」年間指導計画

学年 (総時数)	テーマ	4月	5月	6月	7月	8・9 月	10月	11月	12 月	1月	2月	3月	全体活動
1年 (34)	うぶやまで学ぶ	地域・自然		「そとにいこうよ」(12)※茶摘み②を含む (音)「さんぽ」(図)「おひさまにここにこ」			「はっぱのいろがかわったよ」(9) (生)「あきをさがそう」 学習発表会(4) 「冬がきたよ」(9)(生)「冬をたのしもう」						茶摘み② 子どもヘルパー活動②
2年 (35)	うぶやま探検			「わたしたちの村をたんけんしよう」(8) ※茶摘み②を含む (生)「ときどきわくわく町たんけん」 「生きものを飼おう・育てよう」(4) (生)「生きものなかよし大きくせん」			「わたしたちの村をたんけんしよう」(4) 「もっとむらの人となかよくなろう」(15) (生)「もっとなかよし町たんけん」 学習発表会(4) (図)「ようすをあらわすことば」						
3年 (45)	うぶやまを学ぶ	くらし		「うぶやまのよさを見つけよう」(32)※茶摘み②を含む ※保育園との交流(いもなえ植え) (図)「食べもののひみつ教えてください」(社)「農家の仕事」 (理)「しせんのかんさつをしよう」 「学習のまとめをしよう」(9) 学習発表会(4)									
4年 (45)	うぶやまの 自然とくらし			草原		「草原とわたしたち」(17) 茶摘み(2) 子どもヘルパー活動(15) (理)「季節と生き物」(図)「森の芸術家」 学習発表会(4) ファースト卒業式の取組(6) 1年間のまとめ(1)							
5年 (45)	うぶやまに学ぶ	稲作		「うぶやまの米作りを学ぶ」(12) 子どもヘルパー活動(15) 水俣に学ぶ(11) (図)「ゆるやかにつながるインターネット」(社)「これからの食料生産とわたしたち」 学習発表会の取組【準備・まとめ(3) 学習発表会(4)】									
6年 (45)		福祉		「うぶやまの平和のために」(16) 「うぶやまでそだった自分を見つめよう」(8) 「学習発表会に取り組もう」(6) 子どもヘルパー活動(15) (道)「うちらネコの手ボランティア」(社)「わたしたちの生活と政治」 (家)「考えよう これからの生活」									
7年 (45)				「福祉(うぶやまの福祉)(15)」 平和学習(6) 「学習発表会の取組」(9) 子どもヘルパー活動(15)									
8年 (45)	うぶやまは学ぶ	仕事		「進路学習」(2) 「産業(うぶやまで働く)(25) (うぶやまと山口・広島)(6) (人権学習)(2) 「学習発表会の取組」(10)									
9年 (45)	私たちの未来	未来		「進路学習」(12) 「学習発表会の取組」(10) 進路公開(10) 「子ども議会の取組」(13)									

本校に学ぶ
経験つて教育活動



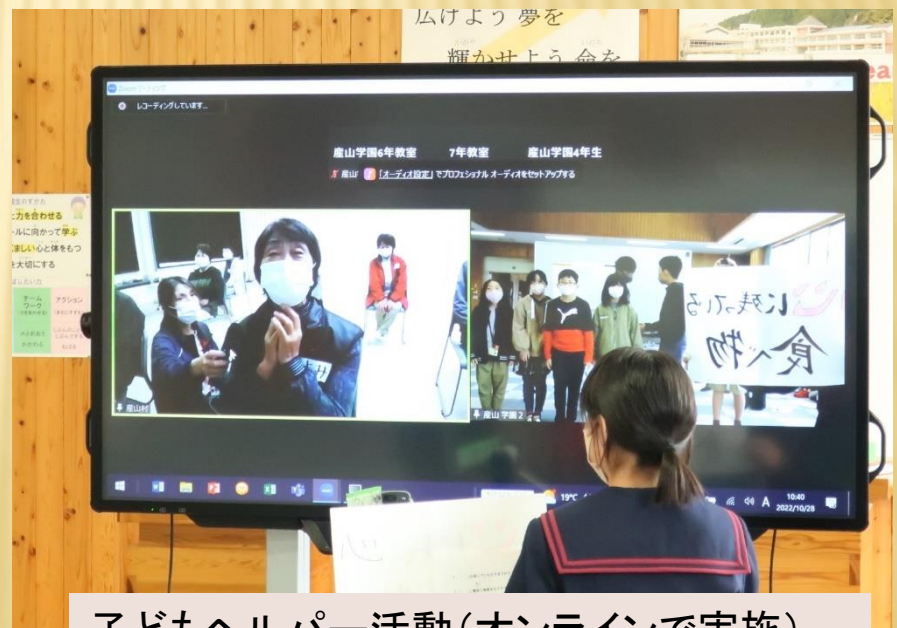
田植え



茶摘み



中学生「子ども議会」 ※村議員等を前に提案



子どもヘルパー活動(オンラインで実施)

子ども議会



産山天文台 あの夢が現実にな！



うぶやま天文台：産山村成人式

山鹿川」への河川名復元

- × 平成30年2月2日の「子ども議会」において、産山中学校（現産山学園）の最後の卒業生である先輩達が、「玉来川は、かつて山鹿川と呼ばれており、古くから親しまれている産山にゆかりのある『山鹿川』の名称に変更できないものだろうか」と提案しました。程なく、先輩達の故郷を思う提案に賛同した村民の方々は「産山村の山鹿川を考える会」を立ち上げ、名称復元の署名活動を展開し、村と村議会は、県知事や九州地方整備局長、県議会議長に要望書を提出しました。そしてついに、国土交通省社会資本整備審議会で審議され、令和元年7月5日、官報にて正式に「玉来川」から「山鹿川」に名称復元することが認可されました。産山を愛し、産山を誇りに思う子ども達の思いが実現したのです。



(3) 特色ある教育課程の編成

(ウ) チャレンジ学習

教育課程の編成（R5年度）

学年 教科等	1ステージ				2ステージ			3ステージ	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
英会話科	20	20	20	20	35	35	35	35	35
英語科			35	35	70	70	140	140	140
うぶやま学	34	35	45	45	45	45	45	45	45
チャレンジ学習			25	25	25	25	25	25	25

チャレンジ学習

通称「チャレ学」

国語(漢字)

英語

算数・数学

△児童・生徒が自分で目標を設定
△複数の教員できめ細やかな指導

○基礎基本の定着

○学習意欲の喚起

○発展的学習

○個々の力を伸ばす

各種検定へチャレンジ

各種検定＝英検、漢検、数検



英語検定受検



※職員による複数指導体制

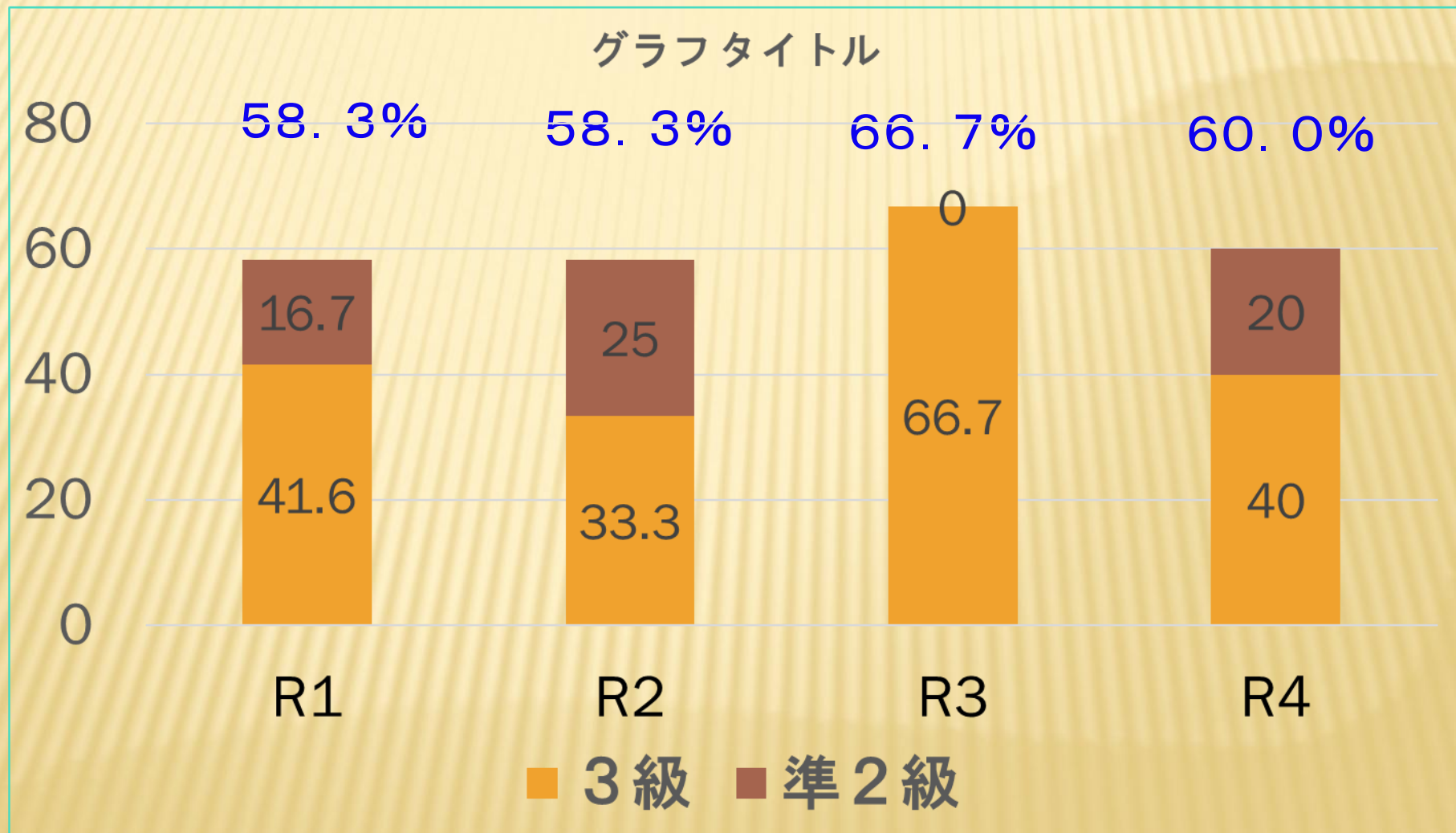
※英検は、3～5年はジュニア英検、6年から英検5級を受検している。

※村助成により、各検定は1～6年1,500円 / 年、7～9年2,300円 / 年の負担で何回も受検できる。

令和4年度 各種検定取得状況(3月末現在)

	学 年	～6級	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級
漢字	7年生 (8名)	3	2	2	1			
	8年生 (13名)	3	2	3	4	1		
	9年生 (15名)	3	2	3	6	1		
数学	7年生 (8名)	3	5					
	8年生 (13名)	2	3	7	1			
	9年生 (15名)	2	2	4	7			
英語	7年生 (8名)		2	2	2			
	8年生 (13名)		3	3	5	2		
	9年生 (15名)		1	5	6	3		

9年生の3級以上取得率



英検

Eiken Foundation of Japan
Group Excellence Award

2015 Academic Year

This award is presented in recognition of
your organization's outstanding achievement
on the EIKEN Test in Practical English Proficiency,
conducted by the Eiken Foundation of Japan.

March 24, 2016
20160324(0004)

Koichi Matsukawa
Koichi Matsukawa
Chairman of the Board
Eiken Foundation of Japan

優秀団体賞

受験率部門

熊本県産山村立 産山中学校 殿

貴団体は公益財団法人日本英語検定協会主催平成27年度実用英語技能
検定において優秀な成績を収めました

よってここに優秀団体賞を送りその栄誉をたたえます

平成28年3月24日

公益財団法人
日本英語検定協会



理事長 松川 浩一



平成27年度英語検定

「優秀団体賞」受賞

平成28年3月



産山小・中学校のチャレンジが認められる。

平成28年度英語検定

「米国大使賞」 受賞

平成29年3月



United States Ambassador Award 2016

"Study of a foreign language is the first step to international understanding."

Congratulations to

産山中学校

Ubuyama Junior High School

in recognition of your institution's outstanding achievement
on the EIKEN Test in Practical English Proficiency
for the 2016 Academic Year.

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Jason Hyland".

Jason Hyland

Chargé d'Affaires ad interim
Embassy of the United States, Japan
March 27, 2017

英検

3 取組の概要

(4) ICT教育の推進

産山学園のICT環境（R5年4月現在）

- * 「GIGAスクール構想」実現のため、学園生1人1台のノートPCと高速大容量通信ネットワーク環境を校内に整備
- * 教師用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書
- * SkyMenu、ロイロノート、eライブラリ
(前期課程はこれに加えて問題データベースタブレットドリル、小学館デジタルドリルシステム)
- * 各教室に電子黒板、実物投影機、電子黒板用PC
- * 校務用PC 教員1人1台
- * 1、2年教室にApple TV
- * 特別支援教室にiPad

JAET（日本教育工学協会）の認定



平成28年3月31日

学校情報化優良校認定



平成28年10月15日

学校情報化先進地域認定

産山学園のプログラミング学習

小学校段階のプログラミングに関する学習活動の分類(例)

プログラミング教育は、学習指導要領に例示されている単元等に限定することなく、多様な教科、学年、単元等において実施されることが望まれます。

また、プログラミングに関する学習活動は学校内外の様々な場面で実施することが考えられますが、右図のとおり分類/整理しています。文部科学省および「未来の学びコンソーシアム」における指導事例等の情報発信については、この分類を踏まえて行います。

教育課程内のプログラミング教育

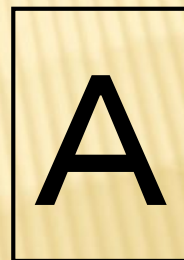
- A. 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの
(算数: [第5学年] B 図形 (1) 正多角形、
理科: [第6学年] A 物質・エネルギー (4) 電気の利用、
総合的な学習の時間: 情報に関する探究的な学習)
- B. 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの
- C. 各学校の裁量により実施するもの
(A、B、D 以外で、教育課程内で実施するもの)
- D. クラブ活動など、特定の児童を対象として実施するもの

教育課程外のプログラミング教育

- E. 学校を会場とするが、教育課程外のもの
- F. 学校外でのプログラミングの学習機会

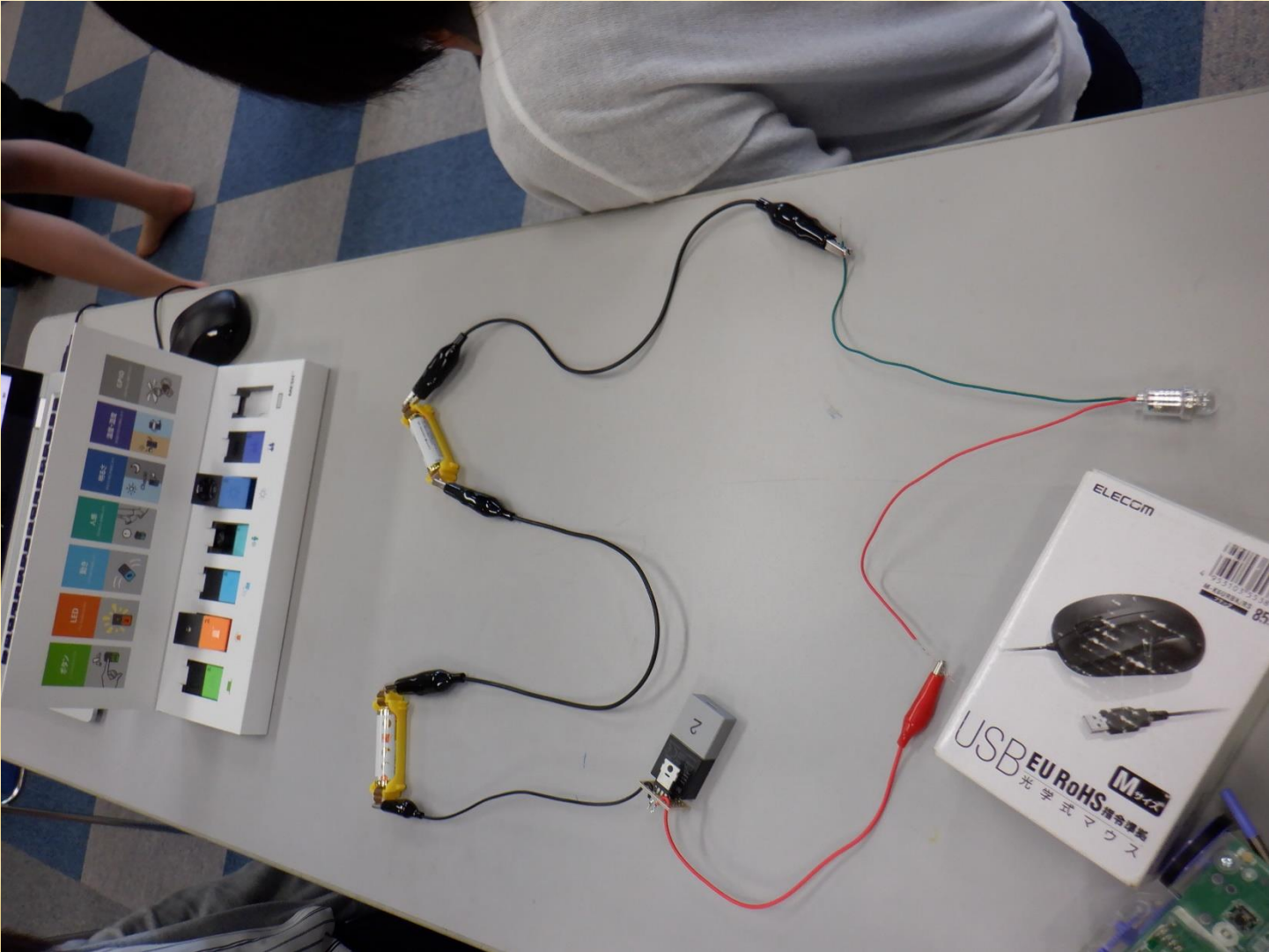
MESHを使った理科の授業

【6年生、電気の有効活用】



『電気をより効率的に使用するためには、どうしたらよいか?』という問題を解決する過程で、プログラミングが可能なスイッチを用いて電気を有効活用するしくみを実際にプログラミングする。



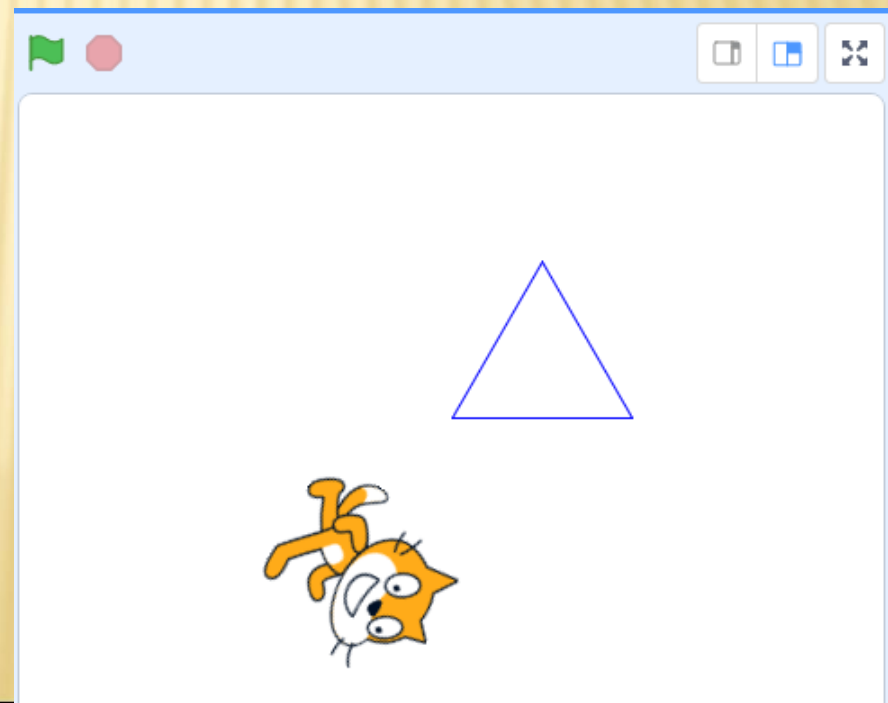


Scratchを使った算数の授業

【5年生B図形(1)多角形】

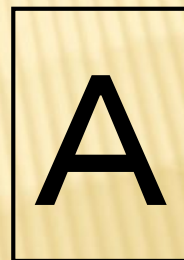


辺の数と回す角度の関係に着目させ、三角形と四角形を描くプログラムを作成する。



Scratchを使った算数の授業

【5年生A数と計算(1)整数の性質】



3の倍数と4の倍数を見つけ、倍数が見つかったら、視覚的に変化が見えるプログラムを作成する。

```
が押されたとき
かず を 0 にする
10 回繰り返す
  かず を 1 ずつ変える
  もし かず を 3 で割った余り = 0 なら
    かず と言う
    1 秒待つ
  でなければ
    かず と ちがう と言う
    1 秒待つ
  ↑
```

プロロボを使った算数の授業

【5年生、単位量あたりの大きさ】

B

プログラムで車型ロボット（プロロボ）を動かし、「1秒あたりの移動距離」を求める。それをもとに、45cmや75cmの移動にかかる時間を計算で求める。計算で求めた時間をプログラムに入力してロボットを動かすことで、正しい答えであるかどうかを確かめることができる。





速さの求め方を考えよう。

プロロボの低速と高速では、
速さは、どのくらいがうが求め
ましょう。

10秒で何cm進んだか！

低速

	時間(秒)	きょ'(cm)
いほ'びた	10	25.48
②うた'こた'う	10	23.98

高速

	時間(秒)	きょ'(cm)
なな'た'いか'	10	50.88
②うた'れ'いた	10	47.84

C

産山学園のプログラミング学習の時数

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
時数	3	3	3	3	5	5	5	5	5
	生活	生活	C学	C学	C学	C学	技家	技家	技家

1年 アルゴリズム

さわるとニャーゲーム制作

2年 サイトサイトの演奏

3年 PCのキーボードを音楽のキーボードにする

サッカーゲーム制作

4年 宇宙船ゲームの制作

5年 ドローン、(micro:bit)、デジタル時計

6年 ドローン、(micro:bit)、ストップウォッチ

789年

Arduino、100V家電制御、モーター制御

C

産山学園のプログラミング学習

- ・1～2年生：生活科
- ・3～6年生：チャレンジ学習

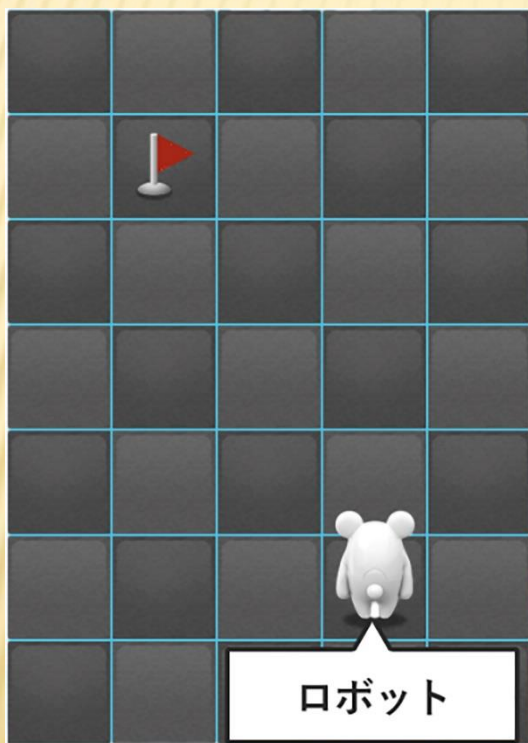
の時間内で行う

A

産山学園のプログラミング学習

- ・7～9年生：技術・家庭
の時間内で行う

1年 アルゴロジック さわるとニャーゲーム制作



このスプライトがおされたとき

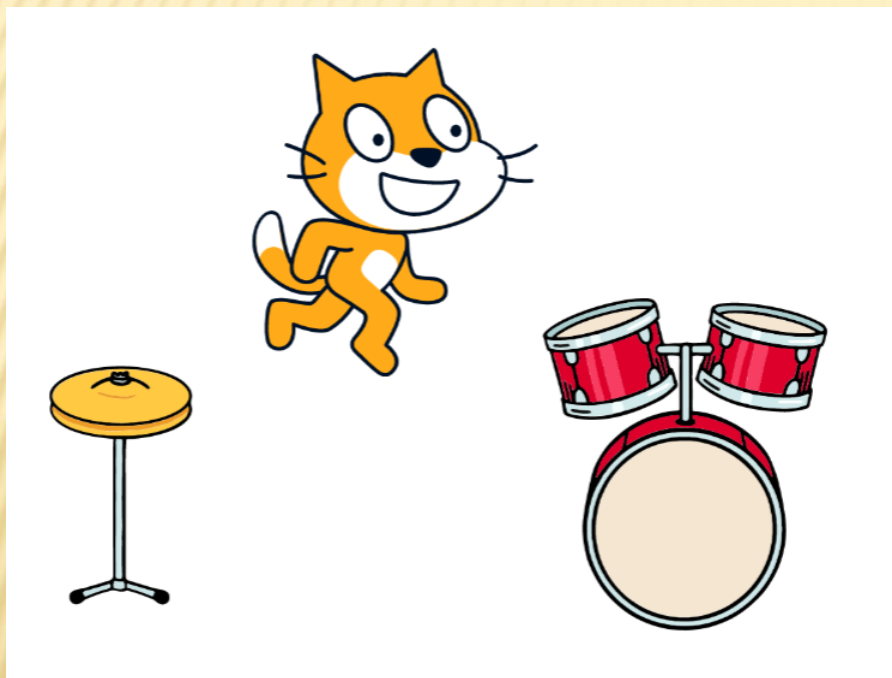
ニャー ▼ のおとをならす

つぎのコスチュームにする

10 ほうごかす

こんにちは! と 2 びょういう

2年 サイタサイタの演奏



がおされたとき

3 かいくりかえす

がつきを (2) でんしピアノ ▾ にする

テンポを 100 にする

つぎのコスチュームにする

60 のおんぷを 0.5 はくならず

つぎのコスチュームにする

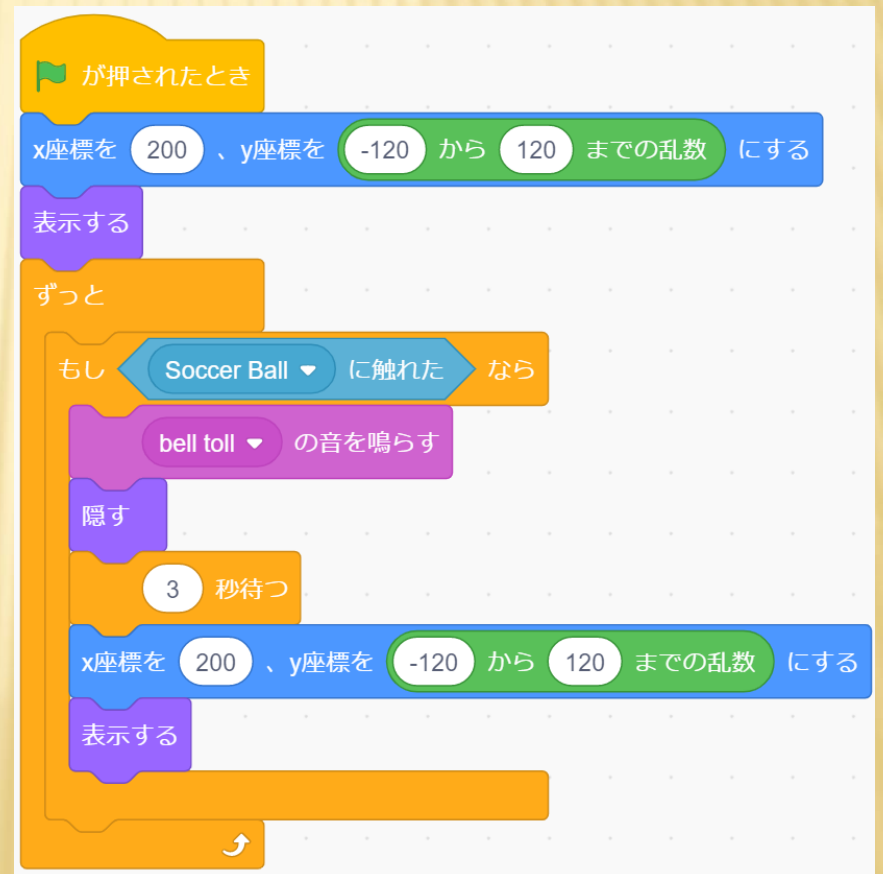
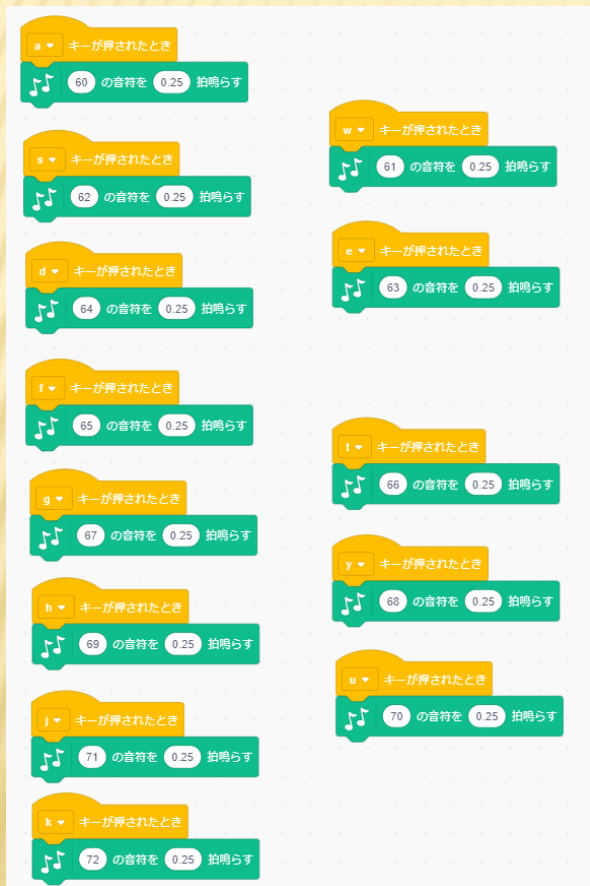
62 のおんぷを 0.5 はくならず

つぎのコスチュームにする

64 のおんぷを 1 はくならず



3年 PCのキーボードを音楽のキーボードにする サッカーゲーム制作



4年 宇宙船ゲームの制作

が押されたとき

- スコア を 0 にする
- 大きさを 30 %にする
- x座標を 0 、y座標を -120 にする
- 回転方法を 左右のみ にする

ずっと

- もし端に着いたら、跳ね返る
- もし 左向き矢印 キーが押された なら
 - 90 度に向ける
 - 10 歩動かす
- もし 右向き矢印 キーが押された なら
 - 90 度に向ける
 - 10 歩動かす
- もし Robot に触れた または Gem に触れた なら
 - やられた と 2 秒言う
 - すべてを止める
- もし スコア > 9 なら
 - クリア と 2 秒言う
 - すべてを止める

が押されたとき

- 大きさを 50 %にする
- 隠す

ずっと

- 6 秒待つ
- 自分自身 のクローンを作る
- 5 秒待つ

クローンされたとき

- 回転方法を 左右のみ にする
- x座標を -240 から 240 までの乱数 、y座標を 200 にする
- 表示する

ずっと

- もし端に着いたら、跳ね返る
- 8 歩動かす
- もし Ball に触れた なら
 - スコア を 1 ずつ変える
 - (3) サイドスティック のドラムを 0.25 拍鳴らす
 - 隠す
- もし y座標 < -140 なら
 - 隠す

5年 ドローン、(micro:bit)、デジタル時計



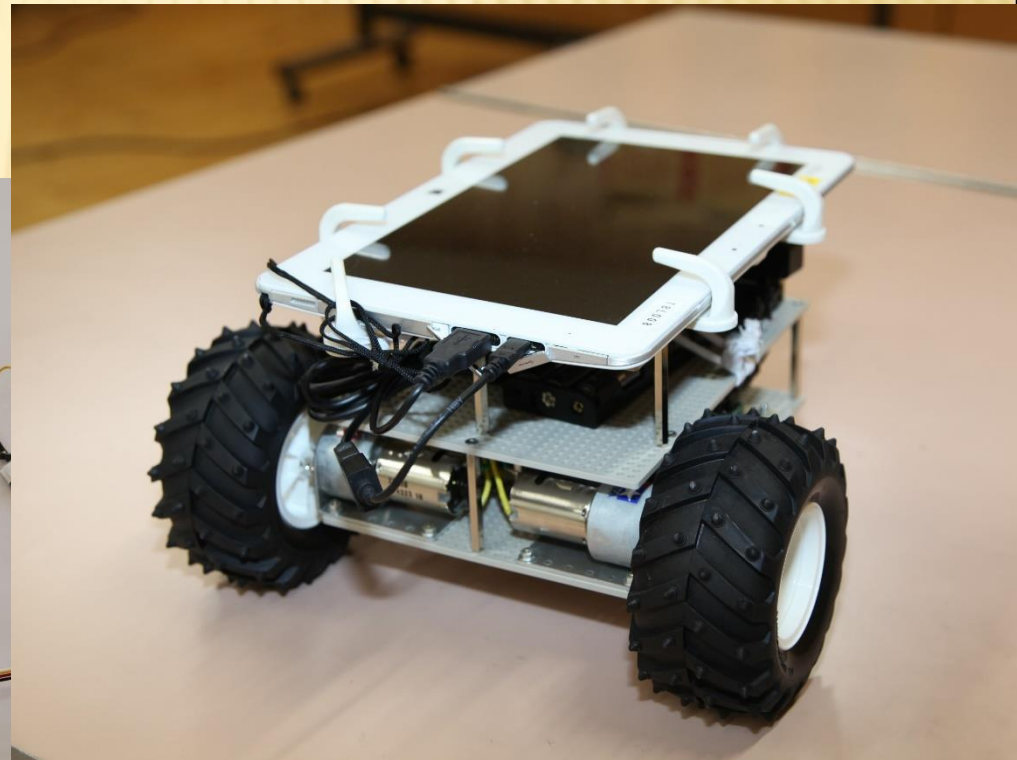
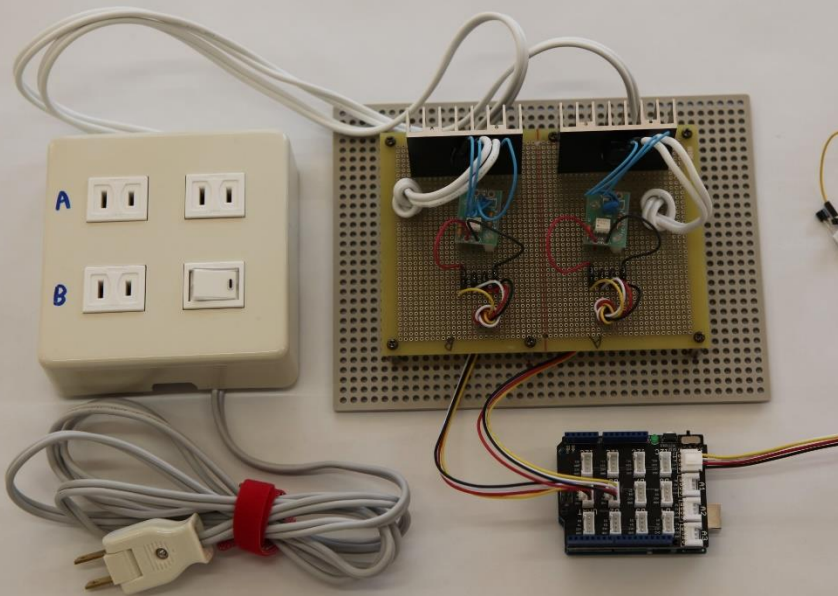
6年 ドローン、(micro:bit)、ストップウォッチ

```
when green flag clicked
  timer reset
  set x coordinate to -170, y coordinate to 0
  set costume to Glow-0
  forever loop
    set costume to (timer / 60) remainder by 60 / 10 remainder by 10
```

```
when green flag clicked
  set x coordinate to -100, y coordinate to 0
  set costume to Glow-0
  forever loop
    set costume to (timer / 60) remainder by 10
```


789年

Arduino、100V家電制御、モーター制御



3 取組の概要

(5) 地域との連携
(コミュニティ・スクール)

(4) 地域との連携(コミュニティ・スクール)

- 平成22年3月、学校運営協議会が設立される。
- 学校支援地域本部事業(30年度から地域学校協働本部事業)とタイアップして、「われら学校の応援隊」というコンセプトのもと産山小中学校コミュニティ・スクールが立ち上げられた。

われら学校応援隊

それぞれの地域の応援隊が「学校運営協議会」を支える。

◆交流コミュニティ(広げ隊)

交流活動を通して、他地域や他国の文化や伝統を理解し心の交流を深め、国際社会の一員としての自覚と故郷「産山」や日本の文化伝統を深く学ぶ場とするための支援を行う。

◆体験コミュニティ(暮らし隊)

体験を通して、福祉や将来の進路に関心を持ち、自分たちの暮らしや生き方を考えるための支援を行う。

◆文化・安全コミュニティ(伝え隊)

産山村の伝統文化を守り伝えていく心を養い、産山村の地域安全を守る活動を通して、産山を愛する心を育てるための支援を行う。

◆学習支援コミュニティ(学び隊)

環境学習や食育や地域学習の支援を行ったり、読書に親しむ態度を育てたりする支援を行う。

コミュニティ・スクール

基本コンセプト:「我ら学校応援隊」

学校運営協議会

〈構成〉◇各コミュニティ代表4名 ◇各行政機関代表 ◇保護者代表1名
◇学識経験者 ◇学校長・副校長・教頭1名 ◇教育委員会が必要と認める者若干名

学校運営協議会事務局

交流コミュニティ (広げ隊)

交流活動を通して、他地域や他国の文化や伝統を理解し、国際社会の一員としての自覚と、ふるさと「産山」や日本の文化・伝統を学ぶ場の支援

- ◆ヒゴタイ交流
- ◆海山交流
- ◆国際理解教育

体験コミュニティ (暮らし隊)

体験を通して、福祉や将来の進路に関心を持ち、自分たちの暮らしや生き方を考えるための支援

- ◆子どもヘルパー活動
- ◆福祉体験活動
- ◆学びの森活動
- ◆職場体験学習
- ◆農業体験学習

文化・安全 コミュニティ (伝え隊)

産山村の伝統・文化を守り伝えていく心を養い、産山村の地域安全を守る活動を通して、産山を愛する心を育てるための支援

- ◆ヒゴタイ太鼓
- ◆浦安の舞
- ◆少年消防隊
- ◆登校安全

学習支援 コミュニティ (学び隊)

環境、食育、地域等に関する学習を支援したり、読書に親しむ態度を育てたりするための支援

- ◆地域学習
- ◆環境学習
- ◆子ども議会
- ◆食育
- ◆読み聞かせ

産山村地域学校協働本部コーディネーター

産山村地域学校協働本部

交流コミュニティ（広げ隊）



ヒゴタイ交流



海山交流



郷土料理教室

△他の地域や郷土の文化・伝統の理解
△産山や日本の文化・伝統を学ぶ。



体験コミュニティ（暮らし隊）

農業体験



子どもヘルパー



福祉体験



職場体験

△福祉や将来の進路に関する体験活動
△自分たちの暮らしや生き方を考える。

文化・安全コミュニティ（伝え隊）



少年消防隊



安全指導



ヒゴタイ太鼓



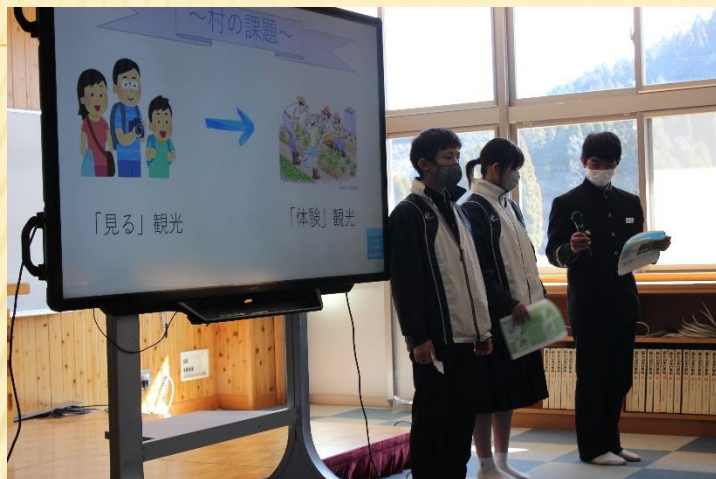
浦安の舞



ソーラン節

△産山村の伝統・文化を守り伝える。
△地域の安全を守る。

学習支援コミュニティ（学び隊）



子ども議会



地域学習



親子すくすくツアー



読み聞かせ

△環境、食育、地域等に関する学習
△読書に親しむ態度を育てるための活動

平成28年度 学校支援活動実績

教科等	国語	算数	社会	音楽	体育	生活	道徳	う学	読み聞かせ	部活動	環境整備等	合計
事業数	3	3	1	2	13	3	5	44	41	17	33	165
人数	15	7	1	3	13	11	7	208	211	22	92	590



平成27年12月、本村の学校支援活動が認められ文部科学大臣賞を受賞する。

3 取組の概要

(6) 教育委員会の取組

(ア) 学力向上への取組 教育に地域格差があってはならない

『うぶやま夢塾』夏期受講生募集

平成29年7月7日

産山中学校生徒・保護者の皆様へ

産山村教育委員会

今年も「うぶやま夢塾」を開講します。これは、学力向上の取組の一つとして学習の基礎・基本の定着やスキルアップが目的です。

夏休みから開講し、計画的に学習の場を提供していきます。日程等については下記をご覧ください。

希望する生徒は、別紙の申込書を7月14日(金)までに、学校または教育委員会に提出してください。

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1 主催 | 産山村教育委員会 |
| 2 場所 | 各教室・産山村基幹集落センター |
| 3 対象 | 7～9年生 |
| 4 実施期間 | 夏休み期間中 午後1時～3時 |
| 5 実施回数 | 夏休み20回程度 |
| 6 教科 | 5教科を中心に学習 |
| 7 学習内容 | 学校の教材を中心に個別学習 |
| 8 講師 | 学習支援員(教員OB、大学生等) |
| 9 費用 | なし |
| 10 送迎 | スクールバス等を運行します。 |
| 11 その他 | 学校行事が予定されているときは、そちらが優先です。 |



うぶやま夢塾実施予定表(自宅控)

日時	参加	日時	参加	日時	参加
7月24日(月)		8月 1日(火)		16日(水)	
25日(火)		2日(水)		17日(木)	
26日(水)		3日(木)		18日(金)	
27日(木)		8日(火)		21日(月)	
28日(金)		9日(水)			
31日(月)		10日(木)			

うぶやま夢塾

9年生実力テストの実施について

産山中学校生徒と・保護者の皆様へ

平成28年12月16日

今回、夢塾では民間の学習塾と提携して実力テストを実施します。自分の習熟度を確認できるとともに、今後の進学を見据えた参考にもなるので、積極的に受検してください。

受検を希望する生徒は、下記申込に必要事項を記入の上、12月21日(水)までに、受検費用と一緒に学校又は教育委員会に提出してください。

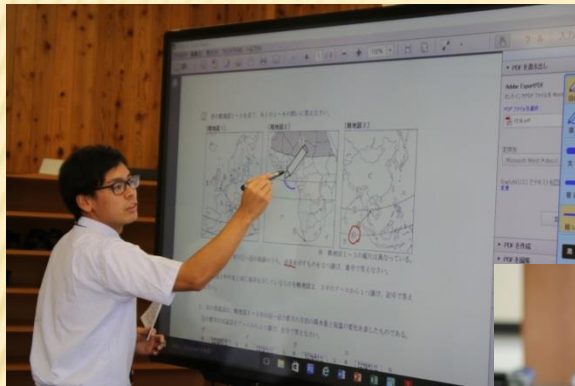
- 1 場所 メディアセンター
- 2 対象 9年生
- 3 日時 平成29年1月5日(木)9:00～
- 4 教科 5教科(国・数・理・社・英)
- 5 費用 1,000円 ※受検料は2,500円ですが、差額は村が助成します。

※民間の塾と提携

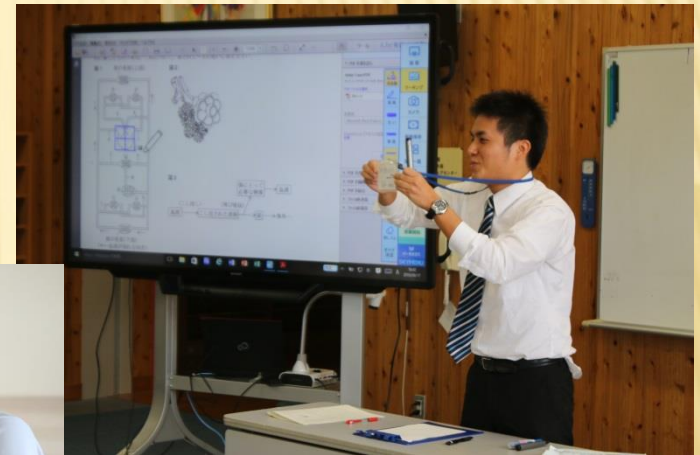


うぶやま夢塾

大学生が講師



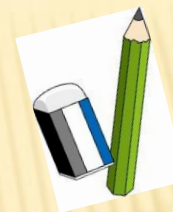
双方向の学び合い



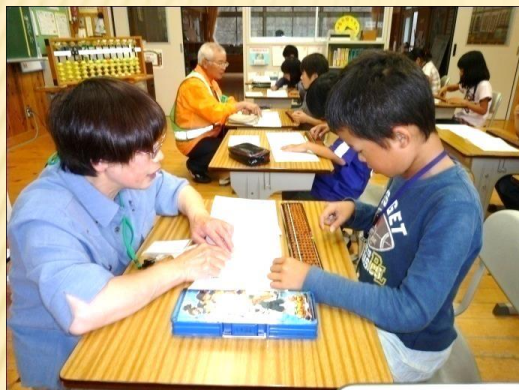
ななめの関係性



イ 放課後子供教室と放課後児童クラブ



放課後児童クラブ



△そろばん教室 ※3年生



△木工おもちゃ制作
※ホンダ技研熊本の協力

▽日本名水そうめん流し ※池山水源



△リガラスアート制作



△役場探検 ※村長室訪問



※平成28年4月開所

ウ 関係行政部局との連携・協働

子どもヘルパー活動

※社会福祉協議会と連携して
平成12年度から開始



▲ヘルパー任命式

▲一人暮らし高齢者宅訪問



▲介護サポーター研修

▲サロン活動



2016ボランティア・スピリッツ賞
「コミュニティ賞」受賞

エ その他の特色ある取組



▲夢の「赤牛ステーキ」給食



▲保育園ヒップホップダンス
※練習時専門家 招へい



▼教育委員会主催
わくわく土曜塾『釣り教室』



▲クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」のクルーによるテーブルマナー教室 ※9年生うぶやま学



▲平成28年12月23日地元紙記事



産山で教育を受けてよかったと
実感できる教育の創造



ご清聴ありがとうございました。

